

巻頭言

国際英語学部長 細川 眞

2002年4月国際英語学部の発足とともに、学部の紀要として発刊された『国際英語学部紀要』は、その第1号が2002年11月に発行され、爾来17年間非常勤教員を含めた学部教員の研究、教育の研鑽、成果の発表の場として学部の重要な役割を果たしてきたが、2020年4月に学部が改組再編されるため本号も持ってその任を終えることとなった。思い返せば、学部の母体となった文学部英文学科時代の『文学部紀要』が学部の特質から縦書きもある小型版だったのが、新学部の紀要では横書きの大判となったため、当初は理系学部の紀要のような感じがして違和感を覚えたが（ページ数も減ったため論文が貧弱にもみえ）、いざ英語論文を書いてみると、いかにもグローバル時代の国際英語学部には相応しい紀要であることがわかった。ほとんどの号でネイティブの教員も投稿しているため英語論文も多く、国際的にも通用する紀要に育ったと言えよう。国内外の学会、研究・教育機関に十分評価され斯界の発展に寄与してきたものと思われる。学部は途中二学科から一学科三専攻へと再編されたが、本誌は最初から一貫して変わらず学生と共にあり、学生の多様な教育、研究指導にも一層の貢献をしてきたことを誇りたい。

これまで厳しく投稿論文等を審査されてこられた歴代編集委員の方々には感謝を申し上げたい。また、年二回の発行への移行を認めていただいた大学当局にも謝意を表したい。しかし最大に謝辞を捧げたいのは、弛まず研究、教育に精励されその成果を投稿されてこられた延べ百人を超える投稿者にたいしてである。

最終号の発行で、‘ All's Well That Ends Well ’ となることを祈りたい。